

# ミンクール

2011年1月 第10号

愛称の由来：「みんなのサークル都市」のみんなとクルを組み合わせ、男女平等参画活動の拠点として、「みんなが来る」の願いが込められています。爽やかな呼びやすい愛称の命名者は利用者の芝垣晶子さんです。

## 特集

## ミンクール2010年度 事業報告

● 7/10 (土) 2010男女平等参画推進講演会

### 北海道開拓期に生きた女性たち ～映像から学ぶ北海道の実相～

70年前のフィルムを通して厳しい自然と過酷な労働の北海道開拓時代に女性たちは、どのように生きてきたのか。子育てにとどまらず、家事及び家内労働で男との分担が義務付けられていた。重い家父長制度の枠の中で女ならではの細やかな暮らしの知恵や気配りが求められていた。女の一人前の基準は女としての仕事量をどれだけこなせるかで測られた。移住者として北海道を自分のものにしていくために「北海道人」としての主体性を育んできた。寒冷地であることゆえに、冬を越すこと、食糧を蓄えることそのものが労働であり、生きることで、北海道人としての気質を育んできた。フロンティアスピリット＝あきらめない、逃げない、くじけない、自分・子ども・家族の命を守るということという個人主義が気質の中に流れている。

今、自分で自分の拠り所が揺らいで来ている。自分がそこにいるということの意味合いを、主体性を大事にしよう。

戦後60年の時間の中に安住して、自己認識の危機であり、アイデンティティを忘れてしまっている。「どういう考え」で明日を生きようとしているのが日本人としてどう生きるべきなのか、過去の時間とにらみ合わせ、失敗を繰り返して明日について考える時なのではないか。高い代償を払った自由、男女平等や様々な権限がいい加減なものになって、本来的な価値に気が付かない。権利・義務を含めてアイデンティティが問われる時代である。自分自身の身元を自分で確かめる。自己統一性を確かめることが新しい時代を生きる選択の基準になるのではないか。

(この時の映像は、一昨年、天皇家から道に寄贈されたフィルムで、北海道新聞社・北海タイムス社の写真部が中心になって火災、水害を経てきれいだったものをダイジェスト版としてつなぎ合わせたものです。公開は今回初めてです。)



「どう生きるべきか」女性の生き方を語る講師



懐かしい昭和の映像に思い出甦る

- \* 男女平等参画推進講演会 ..... 1
- \* 男女平等参画推進フォーラム2010 ..... 2~3
- \* 女性のスキルアップ講座 ..... 2
- \* 男性のライフスタイル講座 ..... 3
- \* 男女共同参画週間記念パ 礼展 ..... 4
- \* 利用者連絡会のコーナー ..... 4

#### 教育委員会主催男女共生セミナー後期 第1講10/16(土)

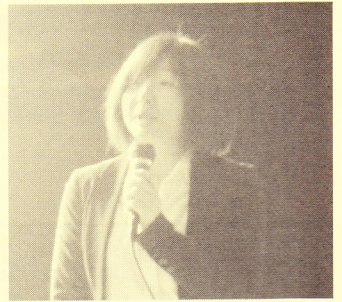
地域の安全—地域と子ども育成—(地域の見守りが子どもの輝きに)が開催されました。基調講演とパネルディスカッションをとあして、学校と地域ボランティアの実践が報告されました。



## 金子明美さんが遺した物 ～命の値段、ガン患者の闘い～

### 講師プロフィール

1975年生まれ。早稲田大学社会科学部卒業後札幌テレビ放送入社。  
ニュース制作・取材と共に、がん治療の現状について取材。  
ドキュメンタリー「命の値段 がん患者、闘いの家計簿」ディレクター。  
STVプロデューサー 佐々木律さんとの共著「がん患者、お金との闘い」  
現在は営業局所属



基調講演：講師 勝島早苗さん

## ●●●● 基調講演&パネルディスカッション ●●●●

### 基調講演

2007年5月金子明美さんからSTVに電話をいただいたのが、すべての始まりでした。  
ドキュメンタリー番組「命の値段 がん患者、闘いの家計簿」取材をするうちに明美さんだけでなく、  
がんと闘っている多くの人たちが経済的負担に苦悩している現実を知り、テレビでは伝えきれなかった医療制度の仕組みやがん対策予算のことなどの問題点に踏み込むことが出来ました。

1. 高額医療制度について  
ひと月の自己負担額が80,100円を越えると健康保険から払い戻される。抗がん剤治療は通院でなされ、高額療養費還付を申請しても3ヵ月後でなければ還付されない。3ヶ月間は立て替えになり、生活を追い詰めることとなります。
2. 公的な資金援助がなく、高額療養費制度も周知されていない。(知らない人・・・45.7%)状況によっては受給できる障害年金のことも、役所、社会保険事務所、ソーシャルワーカーでも知らない人がいるのが現状です。
3. がん保険について  
2回目の手術では180日以上入院でなければ支払われません。しかし、通院治療では支払われないという疑問点。
4. 「がんとお金」アンケートより  
がん治療で負担に感じるものは？ 治療費・・・77% 医療の地域格差・・・50%  
経済的な負担を感じる・・・90% 経済的な理由で治療をあきらめたことがある・・・10%
5. 国の現状は、「高額療養費を通院も毎月還付にすべき」に対して  
回答は、「複数の医療機関にまたがる通院を毎月還付するのは手続きが煩雑で現段階では不可能」という問題点。
6. 保険会社の反応  
「実態を始めて知った」「データブックで知ったつもりになっていた」「保険が何の役にも立っていないことを知った」
7. 浮き彫りになった現実  
がん患者は「命とお金」を天秤にかけている。国や保険会社は「がん患者の現状」を知らない。
8. 誰が医療費を負担するのか  
国民不在の議論ではなく、国は目指す医療の設計図を描き、患者や国民が政策決定に参加する場を設けて欲しい。

● 7/22(木)・24(土)・26(月)・28(水)・30(金) **女性のスキルアップ講座**

### はじめて学ぶパソコン講座 ～ローマ字入力に慣れよう！～

～ドキドキ・ビクビク・ワクワク～

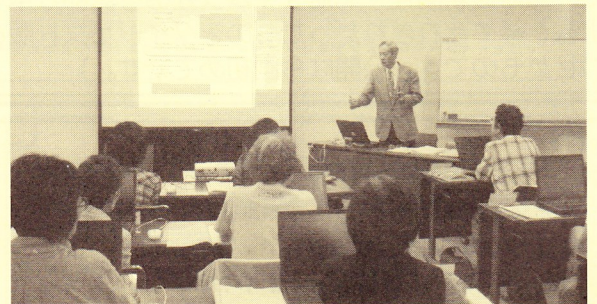
女性の豊かなライフスタイルや社会参加を応援し、パソコンのスキルアップにより積極的な女性の社会参画意識の向上につなげようと5年連続の開講です。

受講生は13名。昨年同様シルバー人材センター講師が分かりやすく、きめ細かな指導をしました。

メイン講師に木村倅三さん、サブ講師に太田進さん、藤江道彦さん、阿部勝さん、田中宗博さん。

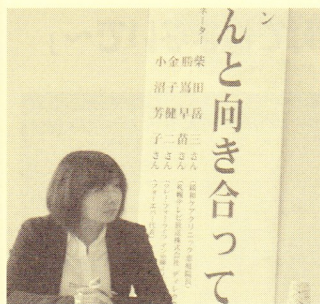
受講生は、緊張しながらも熱心に取り組み、5回の講座を終了すると一通りの文字入力ができるようになって、パソコンの楽しさに目覚めた様子。

「ローマ字もなかなかわからなくて、毎日ことばをローマ字に変えてメモしたり・・・頑張りました」「まだまだ使いこなせないなので、機会があったら、また受講したいです」と意欲的。懇切丁寧な指導がとても好評でした。



● 2010/11/6(土) 13:00~16:00

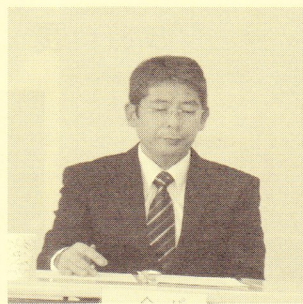
●2F 大研修室



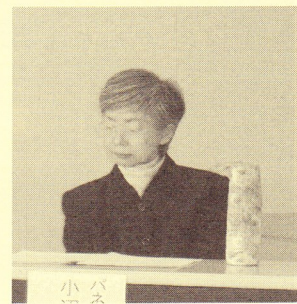
コーディネーター 勝馬早苗さん



パネリスト 柴田岳三さん



パネリスト 金子健二さん



パネリスト 小沼芳子さん

## パネルディスカッション

### ◆柴田岳三さん（緩和ケアクリニック・恵庭院長）

緩和ケアの目標は

1. 全人的ケア（total care）：患者の痛みを全人的苦痛と理解してケアする。
2. QOLの向上：症状緩和による現実の改善とコミュニケーションによって患者の希望を現実近づける。
3. チーム医療：多様なニーズに応えるために
4. 継続ケア：在宅ケアの整備、症状悪化や急変時の対応などのバックアップ体制の整備。理想として、いつでも、どこでも、切れ目のない質の高い緩和医療を提供できる体制の整備です。

医師は教育の中で人と接すること、コミュニケーションのとり方を学んできていない。「緩和ケアを知らなさ過ぎる医師が多いのも現実で技術の習得と共に一番力を入れているのがコミュニケーションです。」と熱く語りました。

### ◆金子健二さん（金子明美さんの夫 リレー・フォー・ライフ2010in室蘭 実行委員長）

6年半の闘病生活でした。今も心に空いた大きな穴は埋めることが出来ません。彼女が立ち上げた患者会は「患者や家族同士が話し合うことで、心の不安を取り除くことが出来ます」。又、2007年リレー・フォー・ライフ東京に参加し「北海道でやりたい」「皆に感動を広げたい」と2008年に第1回を開催しました。その火を消さないで続けていきます。子どもたちも母の妻さ偉大さがわかってきています。「心を癒してくれるのは家族です」と語ると会場では目頭を抑える人が多くいました。

### ◆小沼芳子さん（がん患者と家族の会フォーエバー代表）

7年前にがんが見つかり手術しました。声帯の神経を切られましたが、5年経って声がでるようになりました。「病気になったのは仕方がない。受け入れて闘って行こうと思います。皆様と話が出来ると、外出できることも幸せな患者でないかと思えます。」「体の不自由はしょうがないが、それなりに頑張って生活していけば良いと思えます。明美さんと一緒に立ち上げた「フォーエバー」・「リレー・フォー・ライフ」を続けていきますと前向きに話しました。

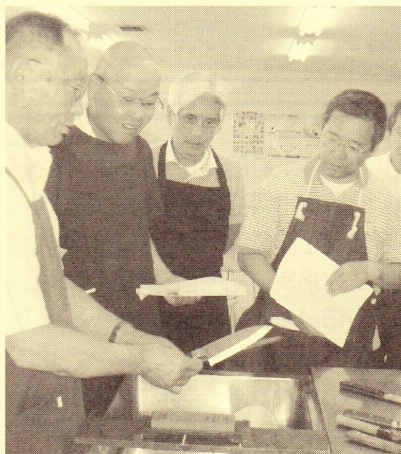
★会場から：報道側からの気付きを一般の方に与えていただきたい。制度の周知も必要だし、患者側も学ぶことが必要だという意見がありました。

● 9/5(日)・11(土)・18(土)

## 男性のライフスタイル講座

### はじめて学ぶ おとこの料理 ～男子厨房に入ろう～

～講師の技に感心！コツの伝授に満足！～



男女平等参画社会の形成には、男性の家庭参画が大きなポイント。

多様なライフスタイルの選択を可能にして生活の自立を応援する講座。

「簡単手早く、美味しい料理」「冷凍食品をより美味しく」講師は栄養士の原田正彦さん。講師のお人柄そのままに、基本からやさしく丁寧な指導で包丁を持つ手が少々危うい受講生達もいきいきと楽しそう。

「調理器具の手入れ～包丁を研ぐ～」はシルバー人材センター講師の今井正隆さん、江平昭広さんが、ひとり一人にきめ細かな指導。

終了後、受講生から「3回の講座にしては本当に勉強になり有意義」

「冷凍食品の使い方は目からウロコ。早速餃子に挑戦！成功しました」

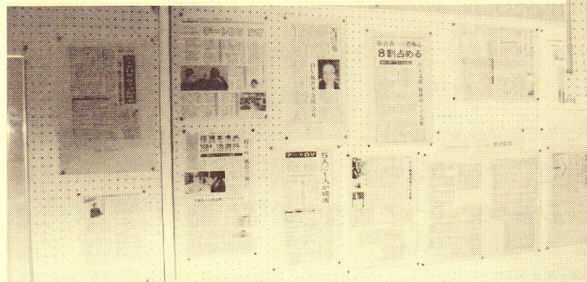
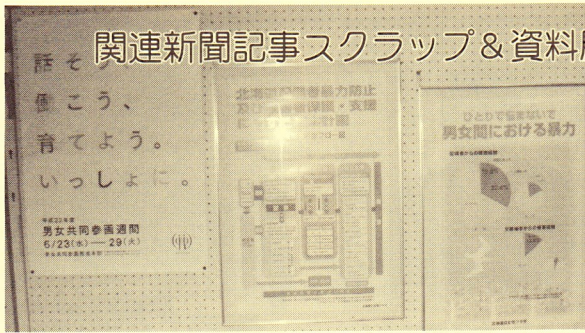
「習ったばかりの鯖の味噌煮を作ったら、家族に大好評」

「ご飯は習ったように炊くと美味しい」「楽しかった！」

「包丁研ぎは、もうバイトが出来そう」と嬉しい声がゾクゾク・・・

# ● 6/22 (火) ~ 7/2 (金) 男女共同参画週間パネル展

● 関連新聞記事スクラップ & 資料展 「男女間における暴力～ひとりで悩まないで～」



関連新聞記事スクラップ & 資料

北海道立女性プラザより提供されたパネルのほか、資料として関連新聞記事スクラップと室蘭市児童相談所（提供）からの室蘭市他管内における資料も展示しました。地域の状況もわかりやすいと好評でした。

## ミンクール利用者連絡会のコーナー

ミンクール利用者の会は「ミンクール」を活動拠点とする利用団体・サークルによって構成され、各団体間の交流と連携を図りながらそれぞれの目的に向かって資質を高め、男女がともに幸せな生きがいある地域社会作りを目指して活動しています。又ミンクールとの協働により、施設の機能を高め、利用しやすい活動の場となるよう意見を集約し提案を行っています。現在、男性サークルを含め45団体が参加しています。

### ●2010年度の主な活動報告

- ① 6/5(土) 平成22年度総会・交流会  
(ママじゃま会手作りのお弁当で楽しく懇談)
  - ② 8/20(金) 会報「利用者のひろば」第18号発行
  - ③ 11/6(土) 共催事業「ミンクール男女平等参画推進フォーラム2010」  
昨年度に続き「ミンクール」と共催で開催。がん患者を取り巻く、社会的・経済的な厳しい状況について学びました。
  - ④ 11/20(土) 会員研修会  
講演会「食づくり、人づくり、そして街づくり」  
(講師：NPO法人羅針盤代表白川皓一氏)
- これからも随時他団体及びネットワーク事業への積極的参加、協力いたします。

### 参加団体・サークル募集!!

年会費：700円（事務室で預かります）

#### ※参加特典

- ・利用団体の交流会や情報交換を通じて楽しい活動の輪が広がります。
- ・専用掲示板が増えました。PR用ポスター掲示に活用できます。
- ・施設に関し、意見や要望があれば利用者の会を通じて提案できます。
- ・数年に1度のフェスティバルでは、成果発表の機会があります。

### \* ~ 編集後記 ~ ~ ~ ~ ~ \*

講師、パネリストをはじめ関係各位、ご参加皆様の多大なご協力をいただき2010年度事業を無事に進めることができました。ミンクールだより10号で事業報告ができますこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。(U)

ミンクール第10号を予定通り皆様にお届けすることが出来ました。趣旨に賛同して、心よくお引受け下さった講師の方々、そして参加して下さいました方々に心からお礼申し上げます。有難うございました。(T)

### \* ~ ~ ~ ~ ~ \*

発行日 2011年1月30日  
 発行 胆振地方男女平等参画センター  
 (管理運営：(社)室蘭市シルバー人材センター)  
 〒050-0083 室蘭市東町4-29-1  
 Tel 0143-44-8184 Fax 44-8191  
 ホームページアドレス：  
<http://www.kujiran.net/danjo/>  
 編集 ミンクール自主事業推進スタッフ  
 (畦田・平)